33

# 学会刊行物の在庫について

現在「気象研究ノート」、「夏季大学テキスト」、「気象学の手引」等の在庫があります。今がお求めの絶好のチャンスです。お陰で売り切れが続出しました。残部の少ないものもありますので、ご希望の方は、申込者名・送り先・希望の印刷物と冊数・代金の支払方法を明示して、お早目に日本気象学会事務局(〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内)へお申し込み下さい。 (郵便振替 東京 3-5958)

第9巻3号 (1958年8月) 催少 (航空と気象) 第14巻1号 (1963年8月) 催少 (日本の天気 (6) 各地の天気) 特集 第100号 (1969年) 催少 (回顧と抱負) 特集 第116号 (1973年11月) 要物理特集 II 一雲核・水晶核 変物理特集 II 一雲核・水晶核 変物理技験 II 一雲核・水晶核 変物理技験 II 一雲核・水晶核 変物理技験 II 一雲核・水晶を 第124号 (1975年8月) 流れの可視化法 追補 境界層と乱流 第126号 (1975年11月) 大気中の内部重力波 II. 対部重力波の理論 大気境界の監動に関する構造 大気境界の監動に関する構造 大気境界の監動に関する構造 大気境界の歴史的展望 大気境界の変数 が第 26 (1975年12月) 大気神のカスや粒子状物質の変遷 大気境界な会特集 大気境界の監験に関する構造 大気等な会対特集 大気境界の監験に関する構造 大気等なの歴史的展望	気象研究ノート	第 129 号(1976年 9 月)
第14巻 1 号(1963年 8 月) 僅少 (日本の天気(6)各地の天気)特集 第100 号(1969年) 僅少 (回顧と抱負)特集 第106 号(1973年11月) ライダ(レーザレーダ)と気象視測 第122 号(1974年11月) 要物理特集 Ⅱ ―雲核・水晶核― 第123 号(1974年12月) 僅少 雲物理特集 Ⅲ ―雪結晶・あられ・ひょうの生成― 第124 号(1975年 8 月) 流れの可視化法 道 補 境界層と乱流 第126 号(1975年 8 月) 流れの可視化法 道 補 境界層と乱流 第126 号(1975年11月) 大気中の内部重力波 Ⅰ .	第9巻3号(1958年8月) 僅少	台風特集
第100号 (1969年) 僅少 (回顧と独自) 特集 第13章 台風の進路とその予報 (回顧と独自) 特集 第13章 台風の進路とその予報 第13章 台風の進路とその予報 第12号 (1973年11月) 第12号 (1974年11月) 要物理特集 II ――雲核・氷品核―――――――――――――――――――――――――――――――――――	(航空と気象)	第1章 台風の構造と発達の力学山 岬 正 紀
第 100 号 (1969年) 僅少 (回顧と抱負) 特集 第 3章 台風の進路とその予報 第 116 号 (1973年11月) ライダ (レーザレーダ) と気象観測 第 122 号 (1974年11月) 雲物理特集 Ⅱ —雲核・水晶核— 第 123 号 (1974年12月) 僅少 雲物理特集 Ⅱ —雪結晶・あられ・ひょうの生成— 第 124 号 (1975年 8月) 流れの可視化法 追 補 境界層と乱流 第 126 号 (1975年11月) 大気中の内部重力波 Ⅰ 内部重力波の理論 田中 浩 Ⅱ 超高層の大気波動 加藤 進 第 127 号 (1975年12月) 大気汚染気象特集 大気境界層の拡散に関する構造 横山長之大気中のガスや粒子状物質の変遷 大喜多版— 光化学大気汚染に関するシンボジウム ・光化学大気汚染に関するシンボジウム ・光化学大気汚染に関するシンボジウム ・光化学大気汚染に関するシンボジウム ・光化学大気汚染に関するシンボジウム ・光化学大気汚染のの分をと気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海の方を気象条件との関係・ 海に対する 第 135 号 (1978年9月) 海洋における地形性モード波・ 梶浦欣二郎 第 128 号 (1976年3月) 最近の気象学と気象事業の展望	第14巻1号(1963年8月) 僅少	第2章 熱帯低気圧の発生と台風観測
(回顧と抱負) 特集 第 116 号 (1973年11月)	(日本の天気 (6) 各地の天気) 特集	·······
第 116 号 (1973年11月)	第 100 号(1969年) 僅少	第3章 台風の進路とその予報
第 122 号 (1974年11月)     雲物理特集 I ――雲核・氷晶核―― 第 123 号 (1974年12月) 僅少     雲物理特集 I ――雲核・氷晶核―― 第 124 号 (1975年 8 月) 流れの可視化法 追 補 境界層と乱流 第 126 号 (1975年11月) 大気中の内部重力波 I 内部重力波の理論 ――田中 浩 II. 超高層の大気波動 ――田中 浩 II. 超高層の大気波動 ―― 田中 浩 II. 超高層の大気波動 ―― 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	(回顧と抱負)特集	······野本真一·岡村 存
第 122 号 (1974年11月)  雲物理特集 Ⅱ ――雲核・氷晶核―― 第 123 号 (1974年12月) 僅少 霊物理特集 Ⅲ ――雪結晶・あられ・ひょうの生成― 第 124 号 (1975年8月)	第 116 号 (1973年11月)	第4章 台風災害寒田 穣
第 123 号 (1974年12月) 僅少	ライダ(レーザレーダ)と気象観測	第 134 号 (1978年 3 月)
第 123 号 (1974年12月) 僅少 基本方程式とエネルギー論 相原正 変	第 122 号 (1974年11月)	数值予報
第 124 号 (1975年 8 月)	雲物理特集 Ⅱ ——雲核・氷晶核——	数値予報の歴史的展望岸保勘三郎
第 124 号 (1975年 8 月) 境界層の取扱い 片山 昭 放射による加熱率の差分計算法と さの北半球分布	第 123 号(1974年12月) 僅少	基本方程式とエネルギー論相 原 正 彦
流れの可視化法 追 補 境界層と乱流 第 126 号 (1975年11月) 大気中の内部重力波 I. 内部重力波の理論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	雲物理特集 Ⅲ 一雪結晶・あられ・ひょうの生成—	積雲対流のパラメタリゼーション山岸米二郎
道 補 境界層と乱流 その北半球分布	第 124 号 (1975年 8 月)	境界層の取扱い片 山 昭
第 126 号 (1975年11月)	流れの可視化法	放射による加熱率の差分計算法と
大気中の内部重力波	追 補 境界層と乱流	その北半球分布久保田 効
<ul> <li>Ⅰ. 内部重力波の理論・・・・ 田中 浩 Ⅱ. 超高層の大気波動・・・ 加藤 進 数値計算上の問題・・・ 本田 秀 次・岡村 存</li></ul>	第 126 号(1975年11月)	客観解析法清 水 喜 允
II. 超高層の大気波動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大気中の内部重力波	4 次元同化作用とイニシャリゼーション
### 127 号 (1975年12月) 近藤 洋輝・菊池 幸雄 大気汚染気象特集 数値予報プロダクトの利用 大気境界層の拡散に関する構造 横山 長 之 大気中のガスや粒子状物質の変遷 大喜多敏一 光化学大気汚染に関するシンポジウム ・光化学大気汚染中の反応のモデル化と をの素反応論的基礎 秋元 肇 ・大気汚染物質の分布と気象条件との関 海洋力学 係 福岡 三郎 ・光化学大気汚染のモデリングとシミュ 本村富士男 ・討 論 (付録) 大気汚染気象用語集… 河村 武 第 136 号 (1978年12月) 融雪なだれ特集 融雪機構と熱収支 小島 賢治		
大気境界層の拡散に関する構造横山長之大気中のガスや粒子状物質の変遷大喜多敏一 光化学大気汚染に関するシンポジウム ・光化学大気汚染中の反応のモデル化と その素反応論的基礎 秋元 肇 ・大気汚染物質の分布と気象条件との関 係 福岡三郎 ・光化学大気汚染のモデリングとシミュ レーション 木村富士男 ・討 論 (付録) 大気汚染気象用語集河村 武 第 128 号 (1976年3月) 最近の気象学と気象事業の展望 数値予報プロダクトの利用 ・ 立 平良 三・菊 池 正 武 予報可能性と延長予報 立 平良 三・菊 池 正 武 予報可能性と延長予報 位 明 正 世界のオペレイショナル・モデルの現状	Ⅱ.超高層の大気波動加 藤   進	数値計算上の問題本 田 秀 次・岡 村 存
大気境界層の拡散に関する構造横山長之 大気中のガスや粒子状物質の変遷大喜多敏一 光化学大気汚染に関するシンポジウム ・光化学大気汚染中の反応のモデル化と その素反応論的基礎 秋 元 肇 ・大気汚染物質の分布と気象条件との関 係 福岡三郎 ・光化学大気汚染のモデリングとシミュ レーション 木村富士男 ・討 論 (付録)大気汚染気象用語集 河 村 武 第 128 号 (1976年 3 月) 最近の気象学と気象事業の展望 横山長之 予報可能性と延長予報 立 平良三・菊池正武 予報可能性と延長予報 位 明正 世界のオペレイショナル・モデルの現状 吉田泰治 第 135 号 (1978年 9 月) 海洋力学 総論 吉田耕造 海洋大循環 高野健三 海面付近の力学 鳥羽良明 海洋における地形性モード波 梶浦欣二郎 第 136 号 (1978年12月) 融雪なだれ特集 融雪機構と熱収支 小島賢治	第 127 号(1975年12月)	近藤洋輝•菊池幸雄
大気中のガスや粒子状物質の変遷・・・大喜多敏一       予報可能性と延長予報・・・・・住 明正         光化学大気汚染に関するシンポジウム       世界のオペレイショナル・モデルの現状・・・         ・光化学大気汚染中の反応のモデル化と       吉田泰治         その素反応論的基礎・・・・・秋元 肇       第135号(1978年9月)         ・大気汚染物質の分布と気象条件との関係・・・・・福岡三郎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		数値予報プロダクトの利用
*光化学大気汚染に関するシンポジウム  ・光化学大気汚染中の反応のモデル化と  その素反応論的基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		立 平 良 三・菊 池 正 武
・光化学大気汚染中の反応のモデル化と その素反応論的基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
その素反応論的基礎・・・       秋元 肇       第 135 号 (1978年 9 月)         ・大気汚染物質の分布と気象条件との関係・・・       海洋力学         ・光化学大気汚染のモデリングとシミュレーション・・・・       本村富士男・ 海面付近の力学・・・・       島羽良明・ 計 論 海洋における地形性モード波・・・ 梶浦欣二郎 第 136 号 (1978年12月)         ・討 論 (付録) 大気汚染気象用語集・・・ 河村 武 第 128 号 (1976年 3 月)       第 135 号 (1978年 9 月)       農羽良明 海洋における地形性モード波・・・ 梶浦欣二郎 第 136 号 (1978年12月)         第 128 号 (1976年 3 月)       融雪なだれ特集         最近の気象学と気象事業の展望       融雪機構と熱収支・・・・ 小島 賢治	光化学大気汚染に関するシンポジウム	
・大気汚染物質の分布と気象条件との関係       海洋力学         ・光化学大気汚染のモデリングとシミュレーション       海洋大循環       高野健三海向付近の力学         ・討論(付録)大気汚染気象用語集       海洋における地形性モード波       梶浦欣二郎 第 136 号 (1978年12月)         第 128 号 (1976年3月)       融雪なだれ特集         最近の気象学と気象事業の展望       融雪機構と熱収支       小島 賢治	・光化学大気汚染中の反応のモデル化と	
係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7.72	第 135 号(1978年 9 月)
・光化学大気汚染のモデリングとシミュ       海洋大循環・・高野健三         レーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
レーション木村富士男海面付近の力学鳥羽良明・討論海洋における地形性モード波梶浦欣二郎(付録) 大気汚染気象用語集河村 武第 136 号 (1978年12月)第 128 号 (1976年3月)融雪なだれ特集最近の気象学と気象事業の展望融雪機構と熱収支小島賢治		
・討 論       海洋における地形性モード波・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
(付録) 大気汚染気象用語集河村 武 第 136 号 (1978年12月) 第 128 号 (1976年 3 月) 融雪なだれ特集 最近の気象学と気象事業の展望 融雪機構と熱収支小島 賢 治		
第 128 号 (1976年 3 月) 融雪なだれ特集 最近の気象学と気象事業の展望 融雪機構と熱収支・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
最近の気象学と気象事業の展望 融雪機構と熱収支小島賢治		***
		融雪水の積雪内部への浸透 藤 野 和 夫

11111111111111111

1986年6月

融雪水の流出小 林 大 二	大型レーダーによる中層大気の観測
なだれ清水 弘	
第 138 号 (1979年 1 月)	若杉耕一郎・佐 藤 享
梅雨前線帯の豪雨	深尾昌一郎
極東における梅雨前線帯…二 宮 洸 三・秋 山 孝 子	マイクロ波によるリモートセンシング…青 木 忠 生
大雨を伴う梅雨前線帯の構造吉 住 禎 夫	合成開口レーダ小 平 信 彦
梅雨前線帯の中間規模擾乱の構造	音波電波を利用した晴天大気の
吉 住 禎 夫・二 宮 洸 三	リモートセンシング福 島   圓
梅雨前線に及ぼす積雲対流の影響	第 145 号(1982年12月)
(数値予報モデルによる実験)二 宮 洸 三	衛星資料の利用
豪雨の水収支二 宮 洸 三・秋 山 孝 子	会田 勝・二宮洸三・多田一正・ <b>村上</b> 勝人・
梅雨前線帯の下層ジェットと	安成哲三・小花隆司・清水喜充・磯崎一郎・
レインバンド二 宮 洸 三	竹田 厚・赤川正臣・石原健二・落合弘明・
大規模低気圧にともなう豪雨二 宮 洸 三	大貫仁八・駒井二郎・下田陽久
中間規模擾乱に伴う降雨の微細構造	第 146 号 (1983年 2 月)
秋 山 孝 子・二 宮 洸 三	エアロゾル特集(応用編)
豪雨の中規模的様相二 宮 洸 三	硫酸エアロゾルの生成池 辺 幸 正・鈴 木 国 弘
積雲対流と豪雨二 宮 洸 三・山 崎 孝 治	エアロゾルの輸送佐 藤 公 喜
日本の豪雨の気候学的特性と	エアロゾルの除去遠 藤 辰 雄
地形性降雨二 宮 洸 三・榊 原 均	対流圏エアロゾルの空間分布森 田 恭 弘
第 140 号 (1980年 8 月) 僅少	エアロゾルの気象に与える影響
気候変動シンポジウム(Ⅰ)	(雲粒を通しての影響)児 島 紘
一諸要因の変動一	エアロゾルの気象に与える影響
過去の気候変動高 柳 洋 吉	(日射に対する効果)村 井 潔 三
太陽放射の変動性※ 井 邦 明	成層圏エアロゾル層の観測岩 坂 泰 信
第四紀の火山活動町 田 洋	第 147 号 (1983年 3 月)
最近の火山活動山元龍三郎	日本とその周辺の古気候復元(特集号)
地球軌道要素の変動中 島 映 至	序
地磁気変化川 井 直 人	世界と日本の古気候吉 野 正 敏
第 141 号 (1981年 5 月)	古環境による日本とその周辺の古気候
気候変動シンポジウム(Ⅱ)	復元小 野 有 吾・堀 信 行
一諸要因の変動一	遠藤 邦 彦・安 田 喜 憲
世界気候プログラム (WCP) について	堆積物の各種分析から見た最終氷期
	以降の気候変動安 田 喜 憲
気候における雲の役割武 田 喬 男	第 148 号(1983年 5 月)
気候モデルにおける雲の取扱い久保田 効	気象の遠隔測定(Ⅱ)
黒潮の長期変動 寺 本 俊 彦	静止気象衛星の画像データによる
海が運ぶ熱量高 野 健 三	気象要素の抽出加藤 一靖
大気海洋相互作用にかかわる	赤外線放射を利用した気象要素の遠隔
海洋変動へのアプローチ鳥 羽 良 明	測定
砂漠の変動 鈴 木 秀 夫	I. 人工衛星および航空機等による
第 144 号 (1982年 3 月)	測定
気象の遠隔測定(I)	Ⅱ.地上から見た場合の遠隔測定宮 内 正 厚
3/1	₩天気# 33 6

ライダー観測による気象要素の測定……内藤恵吉 第149号 (1984年6月)

モンスーンをめぐる諸問題

モンスーンの変動に及ぼすチベット

高原の影響について……住 明正・村上多喜雄 第150号 (1984年8月)

#### 最近の予報

Ė

Ė ŀ

I;

Ė

E

1

£

確率予報………立 平 良 三・保 科 正 男 量的予報:風………野本 眞一 週間天気予報

勉•小林典謙•矢花植雄 第 151 号 (1985年 2 月) 僅少

気象とカタストロフィー……松 田 佳 久・余 田 成 男 第152号 (1985年12月)

### 気象学における流体実験

気象研究用流体実験装置北 林 興	=
模型実験の相似律北 林 興	=
風洞測定装置小 川	靖
風洞実験データの収集と解析藤谷徳之	.助
流体実験の実例(Ⅰ)	
······北 林 興 二·花 房 龍 男·光 本 茂	記

流体実験の実例(Ⅱ) …… 新 野 流体実験の実例(Ⅱ) …小 川 靖・北 林 興 二・ 加藤真規子・坂 上 治 郎

#### 配布価格

号	9–3	14-1	100	116	122	123
通常会員	300	380	750	950	970	1,400
定期購読						
団体会員	400	460	940	1,380	1,500	2, 100
会員外	450	500	1,020	1,550	1,700	2,400
号	124	120	6 1	27	128	129
通常会員	710	6	50	870 2	2, 560	2,400
定期購読	670	60	00	800 2	2,440	2, 250
団体会員	1,080	1,0	00 1,	300 3	3,900	3,600
会員外	1, 200	1, 10	00 1,	500 4	4, 400	4, 100
号	134	13	5 1	136	138	140
通常会員	4,000	1, 20	00 1,	250 2	2,700	1, 250
定期購読	3,800	1, 10	00 1,	200 2	2,570	1,200
団体会員	6, 100	1,80	00 1,	900 4	1,000	1,900
会員外	6,850	2,00	00 2,	150 4	, 500	2, 100

号	141	144	145	146	147
通常会員	940	1, 100	3,800	1,650	1, 200
定期購読	900	1,050	3,600	1,600	1,100
団体会員	1,400	1,700	5,800	2,500	1,800
会員外	1,600	1,900	6,500	2,800	2,000
号	148	149	150	151	152
通常会員	1,600	1,300	1, 100	1,500	1,400
定期購読	1,500	1,050	850	1,200	1,100
四4人具	2,400	1,800	1,400	2,000	1,900
団体会員	2,400	1,000	1,400	2,000	1,500

## その他の刊行物

- OProceedings of the Symposium on the Use of Satelllite Data in Meteorological Research, November 3-5 1978 Tokyo 1,000円
- OWMO Programme on Research in Tropical Meteorology Extended Abstract of Papers Presented at the MSJ/JMA/WMO/AMS Regional Scientific Conference on Tropical Meteorology (Tsukuba, Japan, 18-22 Oct. 1982) 2,200円
- ○新しい気象学(夏季大学テキスト)
- 第9回(学校における気象教育)1975年

学校における気象教育のあり方………高橋浩一郎 初中等教育における気象学…………済 藤 実 大気汚染観測と整理………… 河 村 武

気象の実験 I: 氷晶核の測定

雲はどのようにしてできるか…………田中 曹 顧 気象の実験Ⅱ

雲粒と降水粒子の測定法を中心にして……佐 粧 純 男 気象のカリキュラムの実際と指導………高井浩深 新聞天気図を利用した実習…………… 高井浩深

第11回 (学校における気象教育特集) 1977年

天気図でみる高・低気圧の構造……… 矢 花 和 一 大気境界層の気象…………… 島 貫

学校における気象観測と観測データの

学習への活用…………原 嶋 宏 昌 パネルディスカッション(話題提供要旨)

学校における気象教育…………伊藤久雄 小学校における気象教育…………吉 野 中学校における気象教育……………… 蒔田真一郎

高等学校における気象教育…………三 芳 気象学の正しい理解が必要………… 島 貫 陸

第14回 (台風特集) 1980年

台風の構造と発生・発達について山 岬 正 紀	異常気象レポート朝 倉 正
台風の数値実験北 出 武 夫	衛星画像からみた大気中の諸じょう乱加 藤 政 勝
台風の解析と予報上 坂 慶 正	第19回(地球をめぐる風)
「ひまわり」から見た台風山 下 洋	高層大気の大循環
台風業務実験平 塚 和 夫	高層天気図の話丸 山 健 人
台風と災害 衆 田 穣	<実習>高層天気図丸 山 健 人
降水の確率予報立 平 良 三・保 科 正 男	局地的な強風現象相 馬 清 二
第15回(熱収支と気候変動特集)1981年	気象衛星から得られる風情報嶋 村 克
最近の気候変動と異常気象能 登 正 之	日本周辺の地震発生の特徴と
太陽放射と地球放射会 田 勝	その予知の現状吉 田 明 夫
簡易日射計の考察会 田 勝	
気象衛星写真の見方柴 田 宣	配布価格
気候に影響する大気中の微量成分三 崎 方 郎	第 9 , 11回
第16回(海と山の気象特集)1982年	第14~16回 1,000円
生活と天気予報・・・・・・・・・・・加 藤 久 雄	第17~19回 1,300円
雷······北川信一郎	○気象学への手引 350円
日本の山岳気象飯田睦次郎	続・気象学の手引 850円
波浪予報の発展小野田 仁	○構造物の耐風性に関するシンポジウム論文集
海の浪の主な性質小野田 仁	第1回 (1970年) 1,500円
海陸風と山谷風のシミュレーション荒 川 正 一	第 2 回(1972年) 2,000円
第17回(新しい気象観測特集)1983年	第3回(1974年) 2,500円
地球流体実験木 村 竜 治	第 4 回(1976年) 3,000円
境界層の観測藤谷徳之助	第 5 回(1978年) 3,500円
人工衛星データ処理土 屋 清	○風工学シンポジウム論文集
地震予知の現状長 宗 留 男	第6回(1980年) 3,500円
Nowcast ····································	第7回(1982年) 4,500円
今後の気象衛星里 見  穂	第8回(1984年) 5,000円
第18回 (天気予報と数値予報) 1984年	○百周年記念事業関係
数値予報発展の歴史・・・・・・・・山岸米二郎	「天気」29巻4号(記念号) (会員 850円) 一般 1,200円)
天気予報の現状,そのシステム草 野 解	「気象集誌」60巻1号(記念号) /会員 3,000円)
数値予報の最先端佐 藤 信 夫	一般 4,000円
大気大循環数値モデル時 岡 達 志	日本気象学会 100 年史 400円

**編集後記**:春季大会も盛会のうちに終了した。しかし この間に我々の身のまわりにはかつてない大変な事が起 こった。

4月26日早朝,ウクライナ共和国チェルノブイリにある黒鉛減速軽水冷却型原子炉を使用した原子力発電所の4号炉が事故を起こして大量の放射性物質が空気中に放出された。当初この影響は局地的なもので日本にまで及ぶことはないと考えられていたが,5月3日から日本各地の降水や空気中の放射能レベルは急上昇し,ことに短寿命の放射性ョウ素(131)が検出されるに至った。原

子力安全神話がもろくもくずれ去った事をよく示しているが、気象学的には、もう一つ大切な事として、対流圏下部の物質輸送が今迄の常識と異なり全地球的なものであることを示している。大気中の Life-time が1週間以上のものならば、ヨーロッパで起こった事は日本に伝わり、更に世界をめぐるのである。1週間分の食糧と燃料をもってヨーロッパから日本への気球の旅をするという事も気象学の実験として考えられてもよいのではなかろうか。 (長)